まちづくりにおける建築再生の可能性を考える

平成 17 年入学
九州大学　文学部人文学科人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専攻

平成 21 年 1 月提出

要約

本論文は、建築を取り壊さずに再生することが、まちやそこに住む人々にどのような影響を与えるのかということを考察することを目的とするものである。“既存の建築や町並みを再生することは、まちの本質的な価値の保存や町の賑わい創出につながっていくものではないか”という仮説のもと、フィールドワークで実際に聞き取り調査をした結果を踏まえ、その現状を明らかにしていく。

第 1 章では、大名・今泉と親富孝通りそれぞれのまちの変遷について述べている。大名・今泉はいまや福岡都心部の人気スポットとなっているが、最近ではまちの更なる開発に疑問を感じる人々も少なくない。このようにまちの人々が不安に感じるわけは、親富孝通りの衰退に在る。数十年前まで現在の大名・今泉と同じように若者の町として栄えた親富孝通りは、乱開発の末、人々が離れ夜の街になってしまった。大名・今泉がその当時の親富孝と似ているということから、人々は親富孝の二の舞を踏んでしまうのではないかと危惧している。

そうした現状から、このままでは大名・今泉はまちの本質的な価値を失ってしまうのではないか、と問題を提起している。

第 2 章では、第 1 章で取り上げた親富孝の例を受けて、経済的な価値の追求は結果的にまちをどういう風に変えてしまうのかを述べている。次に、経済的価値ではない、まちの本質的な価値や人間本来の豊かさを見直す動き（価値の転換）について述べている。そしてその価値の転換が起こった時期についても言及し、現在のまちづくりもその流れを受け継いでいるということを述べている。またまちには様々な価値があるが、具体的にはどのような価値があるのかについて述べ、まちの人々がそれを認識することの重要性について論じている。

第 3 章ではまちの本質的な価値を見直し、人間にとっての本当の豊かさを取り戻すということを「まちづくり」とするならば、建築再生のまちづくり的面にフォーカスを当て、なぜ今建築再生が必要とされるのか、建築再生はどのようなまちづくりを可能にするのかについて考えている。また、建築家の方に聞き取り調査を行い、建築再生という概念の始まりや定義について聞いたことについても記している。

第 4 章では実際に古い建物を取り壊さずに再生し、さまざまな目的で利用されている 3 つの建物に関係している方々に聞き取り調査をし、その建物のなかで、またその建物がある町で、取り巻く人々の間で、どのような社会的効果が生まれているのかについて、建物や人々の紹介を交えながら述べている。長い間人々に使われ、愛されてきた建物だからこそにじみ出る情緒のようなものが、人々の心にどのように響きどのような効果をもたらしているのか、考察も加えている。考察の内容としては、「まちの原風景を大切にしたい」という思いや、地元の人々との共生をテーマにしているという点が、今回のフィールドワークで訪問した全ての人に共通する思いであるということなどに加え、舞台としての建物ということについても言及した。

- 目次 -

はじめに ・・1
第1章　大名・今泉と親富孝の変遷 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第1節　若者のまち大名・今泉地区
(1) 大名というまち
(2) 界隈と呼ぶにふさわしい場
(3) 歴史的視点から見る大名
(4) 今泉の変遷
第2節　親富孝通りの盛衰
第3節　大名・今泉に潜在する不安
第2章　価値の転換とまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第1節　経済的価値の追求
第2節　価値の見直し・転換
第3節　さまざまな価値
第4節　まちづくりの主体の変遷
第5節　福岡での取り組み
第3章　建築再生とまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第１節　なぜ建築再生なのか
第2節　建築再生時代の幕明け
第3節　サステイナブルな社会における建築ストック活用の必要性
第４章　建築再生の可能性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第１節 吉原住宅(NPO 法人ビルストック研究会)の活動
(1)吉原住宅(NPO 法人ビルストック研究会)とは
(2)吉原さんの理念
(3)建築再生とまちづくりを結びつける
第２節　冷泉荘
(1)冷泉荘とは
(2)冷泉荘にこめられた思い
(3) 商店街とのかかわり
(4)商店街にとっての冷泉荘
第３節 エンジョイスペース大名
第５章　まとめと考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
参考文献・URL・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39